

文化 | Culture

火、水、木曜日 掲載

文化部
bunka@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3181 FAX:096-361-3290



元NHKディレクター 馬場 朝子さん

2025年、日本は「昭和100年」を迎える。二つの世界大戦を経て構築してきた世界平和の枠組みは機能をしつつあり、現在もロシアのウクライナ侵攻やパレスチナとイスラエルの戦争が続く。旧ソ連時代からロシア、ウクライナ両国を取材してきた元NHKディレクターの馬場朝子さん(熊本市)

大型対談

昭和100年 語る

山室 信一さん 京都大名誉教授

が、熊本高の同級生で京都大名誉教授の山室信一さんに、この100年に起きた戦争の背景や日常に起きる変化などさまざまな疑問を投げかけながら、世界の平和と日本の将来について思索を巡らせた。(構成・浪床敬子、山本遼、澤本麻里子 写真・谷川剛)



やまむろ・しんいち 1951年生まれ。熊本高 東京大学法学部卒。衆議院法制局、東京大学社会科学研究所助手などを経て京都大学文学部教授。2017年に名誉教授。1984年「法制官俸の時代、国家の設計と知の歴史」で毎日出版文化賞。93年「キメラ 満洲国の肖像」で吉野作造賞。2002年「思想課題としてのアジア」でアジア太平洋特別賞。07年「憲法9条の思想水脈」で司馬遼太郎賞。09年に紫綬章。京都府在住。

ばば・ともこ 1951年生まれ。熊本高を経てモスクワ国立文学部卒業後、NHKに入局。「スターリン 隠された家族の悲劇」「ロシアから見た日露戦争」などドキュメンタリーを40本以上制作。2011年に退職後フリーに。著書に「低線量汚染地域からの報告 チェルノブイリ 26年後の健康被害」など。24年に「俳句が伝える戦時下のロシア」「俳句が伝える戦時下のウクライナ」で熊日出版文化賞。熊本市在住。

者には常に自分の権力をより強くしようと思つたものではないか。2020年には憲法を改正して、大統領の権限拡大と任期の延長を図り、そして反体制の動きを徹底的に抑え始めます。反体制派を外国のスパイを意味する「外国の代理人」に指定する法律を作ったり、ウクライナに侵攻すると同時に、軍に関する虚偽情報流しを最高15年の禁錮刑にするという新しい法律を作ります。これで政府を批判しつづけた見が掃蕩されていったわけですね。同時に進行して行かれたのが、国民を総力戦へと誘うための「大きな国の物語」を作り上げることです。2021年にプーチンは、「ロシア人とウクライナ人の歴史的一体性について」という論文を書きます。ロシアは中世の大国「キエフ・ルーシ」を継承した千年の歴史を持つ偉大な国であり、同じルーシを持つウクライナとベラルーシは不可分である。そして、ウクライナの分離志向は西側の影響を受けたもので、ロシア的だといわれています。また第2次世界大戦の戦勝記念日に、ナチスドイツを倒した1連の戦いを盛大に祝うようになり、「偉大

な祖国ロシア」を国民統合の象徴とするようになり、そして、当時ナチスドイツに協力したウクライナの民族主義者を批判し、現在のウクライナ政権は、その流れをくむネオナチと結びついていると批判を強めていきます。史実とプロパガンダがないままに作られたこの歴史の「栄光の物語」が作られてきたのです。この戦争が始まった時、私も周囲の友人たちも信じられないという思いでしたが、今振り返るとこの戦争への道が着々と作られてきたのだと分かります。山室 東西冷戦が終わった時にフランス・フクヤマが出した『歴史の終わり』は、1917年のロシア革命から生じた資本主義と社会主義という対立が終わり、これからは自由経済と民主主義の時代になっていくと宣言しました。一方で自由になることを見放されると恐れる人もいます。自由経済は富層層を生む機会を提供しますが、飢えて死ぬことも自由な競争社会です。ロシアはいつまでも自由主義経済を採用したわけですが、結局一部を再国有化しました。実は第1次世界大戦後のドイツも

同じで、ワイマールという自由な憲法の時代からナチスの全体主義的独裁に服従する「自由からの逃走」が起きました。そして現在、グローバルゼーションという世界的な自由経済の競争の中では、世界規模で経済格差が生まれ、その正を二元的な強い権力に求め、異論を認めない権威主義に帰依していく流れが生まれています。「ポスト冷戦後」の世界は、民主主義と権威主義の体制に二分化しつつあります。権威主義体制は北朝鮮、中国、ロシアのように皇帝型権力です。プーチンが自らをヒョートル大帝に擬えるのは象徴的です。一方、自由経済と民主主義の勝利者だつたはずのアメリカも自国第一主義を唱える強権的政治家を持するようになり、国内に分断が生まれています。こうして国内統合が危ういとなると、自国を苦境に陥れているとして国際環境の改編を目指す軍事行動が誘発されます。第1次世界大戦後の日本は戦勝国で二等国となり、アメリカの移民排斥問題などもあって敵視されているという意識を持つようになり、同じく排斥されているドイツ、イタリアを中心とする欧州新

なつていました。しかし、1915年に21カ条要求を中国政府に出して99年間延長します。それに対して返還要求運動が高まり、二十数万人の日本人の生命が脅かされたため助けに行こうという世論が作られていきました。1927年から3度にわたる山東出兵も名目上は在留邦人の生命と財産の保護でした。日本は満州事変を起して満州国を作る際に、中華民国から独立したという中国人の自治的要求が切実だから、それを助けるのだと主張したわけですね。まさしく今のロシアと同じです。ウクライナ東部のドンバス地方を占領した後に「彼らが望んでいる独立を認めない話だ」という論理を併合していきました。侵略の正当化というのは、同じような論理を使うのではないのでしょうか。ウクライナにおける戦争は決して日本とは無縁な出来事ではなく、敗戦に至った自国の歴史を省みるヒントとなるべきものです。その上で懸念されることは、日本が満州国を作ったことによって国際連盟を脱退せざるを得なくなった前例です。今も同じようにロシアが国際連盟を脱退し、賛同する諸国

の殺傷は禁止されています。その見分けを付けるために正規兵は軍服や標識などを着用する必要があります。捕虜になれば保護されます。日中戦争の時、中国には便衣兵と呼ばれた立派な服を着た兵士が少なくなりました。そのため一般人も実は兵士で自分たちをいつ攻撃してくるか分からないという不安から、民間人殺害という悲劇が起きました。それがウクライナやガザで繰り返されています。ロシアは「特別軍事作戦」と言って国際法に反する戦争犯罪を起し、ガザではハマスが国家的正規兵ではないために、民間人に対する集団虐殺がテロ爆弾行動として正当化されています。この国際法無視を当然とする戦争が日常化してしまつて、私の最も懸念していることです。馬場 それは、戦争を始める方の国が自分で「事変」とか「作戦」とか名乗ればいわけですか。山室 もちろん、本来は国際法を守らなければいけません。国際連盟はそれまで国権の自由な発動とされた戦争に規制をかけた。しかし、実質的戦争を防げなかったため、国連憲章では名前に関係なく一切の武力による威嚇や武力の行使を禁止しています。また個人の戦争犯罪を裁く国際刑事裁判所もありますが、戦時中には機能していません。国際法というものは、常に構築途上であり、だからこそ順守されるルールを作り上げる努力が要求されます。馬場 抜け穴が多いですね。山室 一番大きな抜け穴は、国連安全保障理事会理事国拒否権です。これがあるから、ウクライナ侵攻を制裁しようとしてもロシアや中国が拒否権を行使する。ガザ問題では、アメリカやイギリスが拒否権を行使し、結局国際法自体が動かなくなつてしまつた。軍事行動を動かさなくつかを認めます。その反省から設置された国連が仲裁の役割を果たすべきなのです。馬場 そつとすると、今起きている戦争を止めるのはなかなか難しくなつていきました。山室 戦争を止めるために大事なことは、中立国が双方と交渉することです。日露戦争の場合はアメリカのセオドア・ルーズベルト大統領が仲裁したことで、戦争を終わらせたことがありました。第1次世界大戦、第2次世界大戦がなぜ長引く、被害が全部大きくなったかという、大國が全部参戦し、仲介する国がなかったからです。その反省から設置された国連が仲裁の役割を果たすべきなのです。朝鮮戦争では国連軍が出動し、それによって一応停戦状態に持ち込み、今も休戦状態にあります。馬場 さも熊日でも書かれていますが、ウクライナの連戦でガザの場合も停戦に合意し、停戦状態を続けながら和解策を探る以外、今は戦争を止める方法はないと思います。

なつていました。しかし、1915年に21カ条要求を中国政府に出して99年間延長します。それに対して返還要求運動が高まり、二十数万人の日本人の生命が脅かされたため助けに行こうという世論が作られていきました。1927年から3度にわたる山東出兵も名目上は在留邦人の生命と財産の保護でした。日本は満州事変を起して満州国を作る際に、中華民国から独立したという中国人の自治的要求が切実だから、それを助けるのだと主張したわけですね。まさしく今のロシアと同じです。ウクライナ東部のドンバス地方を占領した後に「彼らが望んでいる独立を認めない話だ」という論理を併合していきました。侵略の正当化というのは、同じような論理を使うのではないのでしょうか。ウクライナにおける戦争は決して日本とは無縁な出来事ではなく、敗戦に至った自国の歴史を省みるヒントとなるべきものです。その上で懸念されることは、日本が満州国を作ったことによって国際連盟を脱退せざるを得なくなった前例です。今も同じようにロシアが国際連盟を脱退し、賛同する諸国

同調すれば、戦争はさらに収拾がつかなくなるでしょう。日本が国際連盟を脱退し、日中戦争から第2次世界大戦へと突入していった歴史を振り返ると、ロシアに対しても国際協議のテーブルにつけるような対話の場を確保しておく必要がありま。徹底的に国際舞台から排除すれば良いという話にはならないと思つていきます。馬場 戦争の呼び名について、ロシアは今の戦争を「特別軍事作戦」と言っています。「満州事変」と言っていました。なぜ戦争という言葉を使わないのでしょうか。山室 中立国は交戦国に軍事支援や経済的援助が一切できないという「中立法」などの国際法の適用を避けるため、日本は、満州事変、日支事変など単なる偶発事件を指すような「事変」という呼び方をしました。山東出兵などの「出兵」も同じです。ロシアもウクライナ侵攻で、国民や兵士に対し「これは戦争ではない」「単なる軍事演習のようなもの」という説明をしています。「特別軍事作戦」と称して、実質は宣戦布告なき戦争ですが、戦時交戦法に従つて拒否できません。戦時法では、非正規軍や民間人

の殺傷は禁止されています。その見分けを付けるために正規兵は軍服や標識などを着用する必要があります。捕虜になれば保護されます。日中戦争の時、中国には便衣兵と呼ばれた立派な服を着た兵士が少なくなりました。そのため一般人も実は兵士で自分たちをいつ攻撃してくるか分からないという不安から、民間人殺害という悲劇が起きました。それがウクライナやガザで繰り返されています。ロシアは「特別軍事作戦」と言って国際法に反する戦争犯罪を起し、ガザではハマスが国家的正規兵ではないために、民間人に対する集団虐殺がテロ爆弾行動として正当化されています。この国際法無視を当然とする戦争が日常化してしまつて、私の最も懸念していることです。馬場 それは、戦争を始める方の国が自分で「事変」とか「作戦」とか名乗ればいわけですか。山室 もちろん、本来は国際法を守らなければいけません。国際連盟はそれまで国権の自由な発動とされた戦争に規制をかけた。しかし、実質的戦争を防げなかったため、国連憲章では名前に関係なく一切の武力による威嚇や武力の行使を禁止しています。また個人の戦争犯罪を裁く国際刑事裁判所もありますが、戦時中には機能していません。国際法というものは、常に構築途上であり、だからこそ順守されるルールを作り上げる努力が要求されます。馬場 抜け穴が多いですね。山室 一番大きな抜け穴は、国連安全保障理事会理事国拒否権です。これがあるから、ウクライナ侵攻を制裁しようとしてもロシアや中国が拒否権を行使する。ガザ問題では、アメリカやイギリスが拒否権を行使し、結局国際法自体が動かなくなつてしまつた。軍事行動を動かさなくつかを認めます。その反省から設置された国連が仲裁の役割を果たすべきなのです。馬場 そつとすると、今起きている戦争を止めるのはなかなか難しくなつていきました。山室 戦争を止めるために大事なことは、中立国が双方と交渉することです。日露戦争の場合はアメリカのセオドア・ルーズベルト大統領が仲裁したことで、戦争を終わらせたことがありました。第1次世界大戦、第2次世界大戦がなぜ長引く、被害が全部大きくなったかという、大國が全部参戦し、仲介する国がなかったからです。その反省から設置された国連が仲裁の役割を果たすべきなのです。朝鮮戦争では国連軍が出動し、それによって一応停戦状態に持ち込み、今も休戦状態にあります。馬場 さも熊日でも書かれていますが、ウクライナの連戦でガザの場合も停戦に合意し、停戦状態を続けながら和解策を探る以外、今は戦争を止める方法はないと思います。

なつていました。しかし、1915年に21カ条要求を中国政府に出して99年間延長します。それに対して返還要求運動が高まり、二十数万人の日本人の生命が脅かされたため助けに行こうという世論が作られていきました。1927年から3度にわたる山東出兵も名目上は在留邦人の生命と財産の保護でした。日本は満州事変を起して満州国を作る際に、中華民国から独立したという中国人の自治的要求が切実だから、それを助けるのだと主張したわけですね。まさしく今のロシアと同じです。ウクライナ東部のドンバス地方を占領した後に「彼らが望んでいる独立を認めない話だ」という論理を併合していきました。侵略の正当化というのは、同じような論理を使うのではないのでしょうか。ウクライナにおける戦争は決して日本とは無縁な出来事ではなく、敗戦に至った自国の歴史を省みるヒントとなるべきものです。その上で懸念されることは、日本が満州国を作ったことによって国際連盟を脱退せざるを得なくなった前例です。今も同じようにロシアが国際連盟を脱退し、賛同する諸国

の殺傷は禁止されています。その見分けを付けるために正規兵は軍服や標識などを着用する必要があります。捕虜になれば保護されます。日中戦争の時、中国には便衣兵と呼ばれた立派な服を着た兵士が少なくなりました。そのため一般人も実は兵士で自分たちをいつ攻撃してくるか分からないという不安から、民間人殺害という悲劇が起きました。それがウクライナやガザで繰り返されています。ロシアは「特別軍事作戦」と言って国際法に反する戦争犯罪を起し、ガザではハマスが国家的正規兵ではないために、民間人に対する集団虐殺がテロ爆弾行動として正当化されています。この国際法無視を当然とする戦争が日常化してしまつて、私の最も懸念していることです。馬場 それは、戦争を始める方の国が自分で「事変」とか「作戦」とか名乗ればいわけですか。山室 もちろん、本来は国際法を守らなければいけません。国際連盟はそれまで国権の自由な発動とされた戦争に規制をかけた。しかし、実質的戦争を防げなかったため、国連憲章では名前に関係なく一切の武力による威嚇や武力の行使を禁止しています。また個人の戦争犯罪を裁く国際刑事裁判所もありますが、戦時中には機能していません。国際法というものは、常に構築途上であり、だからこそ順守されるルールを作り上げる努力が要求されます。馬場 抜け穴が多いですね。山室 一番大きな抜け穴は、国連安全保障理事会理事国拒否権です。これがあるから、ウクライナ侵攻を制裁しようとしてもロシアや中国が拒否権を行使する。ガザ問題では、アメリカやイギリスが拒否権を行使し、結局国際法自体が動かなくなつてしまつた。軍事行動を動かさなくつかを認めます。その反省から設置された国連が仲裁の役割を果たすべきなのです。馬場 そつとすると、今起きている戦争を止めるのはなかなか難しくなつていきました。山室 戦争を止めるために大事なことは、中立国が双方と交渉することです。日露戦争の場合はアメリカのセオドア・ルーズベルト大統領が仲裁したことで、戦争を終わらせたことがありました。第1次世界大戦、第2次世界大戦がなぜ長引く、被害が全部大きくなったかという、大國が全部参戦し、仲介する国がなかったからです。その反省から設置された国連が仲裁の役割を果たすべきなのです。朝鮮戦争では国連軍が出動し、それによって一応停戦状態に持ち込み、今も休戦状態にあります。馬場 さも熊日でも書かれていますが、ウクライナの連戦でガザの場合も停戦に合意し、停戦状態を続けながら和解策を探る以外、今は戦争を止める方法はないと思います。

今週のギャラリー
熊本市
父娘展 13~17日、不言亭
父娘展 13~17日、不言亭(352)3532。牛嶋十郎さんの25回忌に、娘のたけ子さん(嘉島町)が企画。十郎さんが描いた水墨画とたけさんが制作したパッチワークのタペストリー計13点。
第53回同光会書展 14~18日、県立美術館分館(351)8411。県出身の福岡教育大書道科の卒業

熊日チャリティー知名士色紙展 14~18日、鶴屋(356)2111。漫画家のウオズミアミさんと俳優の竹財輝之助さん、プロゴルファーの竹田麗央さんら各界から寄せられた約150点。購入の申し込み
その他の市町村
【その他の市町村】
チョークアート展 21日まで、南阿蘇村・白水郷アートプレイス(0967)(65)8331。深水瞳さん(宇土市)と生徒3人が、人物や

作品展 16~31日、山鹿市・ポポロ(0968)(44)4835。講師の服部秋彦さん(山鹿市)と受講生5人が描いた風景や静物など約20点。
松井寛写真個展 16~31日、南阿蘇村・ギャラリーカフェ社(090)(2733)7856。松井さん(宇城市)が、カメラ「ライカ」で風景などを撮影した17点。
日本習字 華華支部作品展 17~27日、宇城市・街なか図書館濱まち/出町(090)(5486)6836。指導する橋原珠己さん(宇城市)と教室生47人が書いた毛筆と硬筆約60点を両会場に分けて展示。

文化部
bunka@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3181 FAX:096-361-3290

火、水、木曜日 掲載



元NHKディレクター 馬場 朝子さん

次世界大戦からは飛行機による空襲で... 馬場さんの本にあった「公園に兵士...」

Timeline table from 1873 to 1956, categorized by Meiji, Showa, and Heisei eras.

大型対談

昭和100年 語る

異なる愛国心と愛郷心 一つではない民主主義

京都大名誉教授 山室 信一さん

馬場さんは昨年、ロシアとウクライナで暮らす人たちが詠んだ俳句を... 山室 戦争に向かう日本では新興俳句...



でも、その愛国心というのがとても難しいですね... 山室 戦争の時、「最後の一人まで戦う」...

私が満州国をずっと研究してきた気が... 山室 愛国心は「愛郷心」を「愛国心」と...

最近日本だけでなく、世界で分断が深まっていると言われています... 山室 「愛郷心」と「愛国心」...

NHK連続テレビ小説「虎に翼」を見て... 山室 国家とは「想像の共同体」と定義...

ロシアでも連が崩壊し、「公明」から... 山室 「愛郷心」と「愛国心」...

一体何なんだと驚き、みんなついていけない... 山室 確かに民主主義は素晴らしいもの...

次世界大戦からは飛行機による空襲で... 馬場さんの本にあった「公園に兵士...」

馬場 多様化する世界と言われている... 山室 「愛郷心」と「愛国心」...

第48回全国高校囲碁選手権大会 白高木 蘭 (真和高1年) vs 黒吉田 達也 (熊本高1年)

先段坂田 翔平 vs 三段尾方 芳晴

最後のチャンスか... 馬場 多様化する世界と言われている... 山室 「愛郷心」と「愛国心」...

文化部
bunka@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3181 FAX:096-361-3290

大型対談
昭和100年
語る

「日本は来年、「昭和100年」を迎えます。100年の日本の歩みをどう捉えますか。
山室 日露戦争後から1925年くら...

総動員のために思想戦・宣伝戦が不可欠となりました。日本でも憲兵や特別高等警察(特高)が国民の思想や言論、政治活動の取り締まりに当たり、戦時中は「大本営発表」という事実をねじ曲げたプロパガンダが使われる時代に入ります。現在、世界は世論形成において客観的事実より個人の感情が影響力を持つ「ポスト・トゥルース」の時代に入りましたが、それもこの100年を集約した現象でしょう。
ウクライナにおける戦争はハイブリッド戦争と呼ばれるように、武力だけでなくサイバー戦力が戦況を左右する情報戦争でもあります。
馬場 日本でのロシアとウクライナの戦争報道では情報量が膨大な割に、情報が偏っているとあります。物事を判断するにはお互いの言っていることをメディアとしてちゃんと報道しなければならぬ。ロシア側の理屈が間違っているとしても、ロシアの言うことを聞く必要はないと、か、そういう意見もありますが、世界が本気で戦争を終わらせようとするのであれば、両方の言い分を聞かないと解決法が見つからないんじゃないでしょうか。今のメディアによく見られるのが黒かの単純な二元論や、勧善懲悪の分

元NHKディレクター 馬場 朝子さん

山室 信一さん 京都大名誉教授

「さらなる戦後」続ける努力を

かりやすきは、逆にリアルで複雑な世界を見えなくしてしまっています。
今ネットにはさまざまな情報があり、自分で多様な情報を取りに行く人と、与えられる情報だけでよくなる人とは、全然世界の見え方が違ってくるでしょう。ちなみにロシアでのプーチン支持率はテレビ視聴者で86%、ネット視聴者の若者層では55%です。またフェイスブックにも多いし、そういうものを見極めるメディアリテラシーを一人一人が磨いていかなければならぬ。メディアで動く人たちにしても、一般の視聴者や読



馬場朝子さん(左)と山室信一さんは7月19日、熊本市中央区の熊日本社(谷川剛)

をもっと積極的に取り上げないといけないと思います。他の国民に対する無知と偏見は戦争の好物ですから。
また、今回のウクライナでの戦争への経緯を振り返っても、何年にもわたってウクライナもロシアもメディアが危境をおおってきた。自分たちは狙われている、明日にも攻められるというふうな報道が両国で行われてきました。恐怖は強くなる心を動かします。そしてお互い軍備を拡張してきたわけですから。それが戦争が始まることを阻止したかということ、そうじゃない。今日の状況は、逆にヒートアップして

混同されがちです。例えば台湾有事。日本では今日にも開戦かのように危機をおおっていますが、台湾の知人たちは冷静に事態を見ていますし、中国大陸で動いている多くの台湾の人や企業を無視して軍事侵攻をする意味もなし。戦争を本気の意味で防ぐのは、人と人がそこに住み、交流することが重要な鍵となります。
これらの100年はトランスナショナルの時代になると考えています。訳すと「民衆、民と民がつながって」ということです。これまでのように国家と国家の戦争によって見たこともない人同士が戦い合うのではなく、民と民がつながっていったら、お互い殺し合っても仕方ないよねという通念になっていく。そうしたつながり方ができるという意味で、SNSは一つの可能性を持つと思います。
重要なことは、私たち自身がメディアになり得ることです。メディアつまり媒体とは、人と人をつなぐものです。プロパガンダに動揺しないためにも、「マス・メディアと共にパーソナルメディアをいかに使っていくのが大事です。
外交的に言えば、相互の信頼醸成しかな。国際政治の常識です。信頼を醸成するためにはどうやってパイプを作るかが課題となりますが、日本が北朝鮮や中国とパイプを作っているのかと言えば、首脳同士でじっくり話し合うことさえない。日韓のシャトル外交も、10年余り途絶えていた。信頼醸成のための外交ができるはずはありません。政治家は、軍備を強化することで国民の安全を守っていると言っています。が、本当に政治をやっているのか、その信託醸成のパイプを着実に作っていく努力ですね。
これは良い面とともに問題点もありますが、戦後の自民党の政治家には、日本の植民地や中国の傀儡政権で現地の人々と交流した経験を持つ人が多かった。岸信介は満州国での行政を統括しました。大平正芳は内モンゴルの張家口で勤務しました。福田起夫は南京の汪兆銘政権の財政顧問でした。もちろん社会党や共産党の政治家にも台湾を含めて現地を知っている人が多かった。しかし、現状はどうでしょうか。アメリカの対中政策に追従しているだけに見えるのは、いかにも残念です。
亡くなった安倍晋三さんはロシアの核兵器による威嚇に対抗すべく「核の共有」を主張しました。実際、北大西洋条約機構(NATO)にも核共有国がいづくかあります。しかし、核兵器

者にとっても大変な時代の到来だと思えます。
核の抑止力をはじめ世界中がいま軍備拡張に傾いています。日本が、戦争をしないために進むべき道はあるのでしょうか。
馬場 世界の中で日本はどこを向いているのかなとも思います。G7だけが日本にとって世界なんだろうかと。日本はアジアなのに。メディアはアジア諸国やグローバルサウスと呼ばれる世界のさまざまな価値観を持つ人たちが集まっているという視点

といった結果とも言えるわけです。日本も軍備を拡大していったら、他の国から見たらそれは脅威でしょう。軍備を拡大するということは、戦争への道を開く可能性もあるということです。相手の靴を履いてみる、相手から自分はどう見えるか想像してみることが大切だと思います。
山室 おっしゃるとおりです。軍備拡大は国民の福祉向上には直結しないし、むしろ低下を招きかねない。日常的に守るのと、危機の時に守るというのは全く違ふ話のはずですが、その辺

に民主主義国家としてのアメリカと対等に手を結ぶ必要を訴えました。今の日米同盟と同じと思われるかもしれませんが、その中身は全く違う。憲法9条の精神は、外交努力の目標でもあり、私たちがこつこつと世界を創出する国家目標を掲げています。その精神を生かすというのは、起きている軍事紛争の調停者としてできることをさせてもらいたいという「世話焼き」を買って出るといっていいです。
前回、馬場さんが男女平等の問題点を取り上げられました。それでは日本の男女格差が世界的にも低位であるからその現状に合わせるように憲法第24条を変えましょう、などは誰も考えないと思います。
憲法が掲げる目標に向けて、次にどういう手順を取るかという政策手段を法律で決めるというのが本来の憲法と法律の関係です。現状に合わせて憲法を変えなければいけないという議論ではなく、現実を憲法の趣旨に一步でも近づけるべく改良していく法律を作るのが立法府の役割のほうです。行政府と司法府にも第99条で憲法尊重擁護義務が課せられています。順守できないというのであれば、義務を果たせないのですから自ら辞任すべきです。
もちろん、国民は前文にあるように憲法の制定者ですから、違つ国家目標を掲げる憲法を制定する運動をする自由があります。

年上の人たちと話している時に「今の憲法を替えて100年間守ったらどうだ」と言われました。守ってみて、その後、新しい世界を創るために、一部変えるにしても、一新するにしろ再考してもいいのではないかと、新しいことを試みるにはどうしたらいいかと、具体的な対処法を考えてみたいというのが、いかにかというところで、それが今の憲法改正の議論の筋道だろうと思えます。
確かに今の日本は「新しい戦前」になりつつあるような雰囲気があります。が、「新しい戦前」には「必要はまったくありません。日本は戦後80年であることが、100年だろうが、ずっと戦後であり続けているのです。「新しい戦前」はキャッチーな言葉ではありませんが、そこから戦前の教訓をくみ出して、「さらなる戦後」を続ける努力をしていこうかと思っています。
馬場 全く同感です。私は第2次世界大戦後、幾度も戦争をしてきたロシアの歴史を見てきました。その間、何度もロシア市民の街頭インタビューで「何を望むか」という質問をしまし「平和」と答えるのです。彼らにとって「平和」は「あるもの」ではなく、「望むもの」なのです。そういった日常

「平和」のある世界 次世代に

不拡散条約(NPT)に入っている日本、しかも世界唯一の被爆国である日本が、もし核兵器を共有したら、それこそ国際的信頼を一挙に失うはず。しかも、核の管理には膨大な費用と多くの専門家を要し、1万2千発近い核弾頭のメンテナンスは危ういと言われています。
ウクライナでの戦争が始まった時、私が一番恐れたのは、ロシアがチェルノブイリとザポロジエの原発を攻撃・占領したことで、原発が誤爆などで爆発したら、核弾頭を落とすのと同じでヨーロッパ全体が核汚染される。同じ問題を日本も考える必要がある。同じ問題を日本も考える必要がある。同じ問題を日本も考える必要がある。
憲法9条も同じで、条文にあるような日本を作りましょうという話なのです。つまり、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求するという国の姿勢ですね。そのために国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力による行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄すると。これはまさに今こそ世界的規模で要求されていることです。
話が飛びますが、横井小楠は「世界の世話焼きになる」と言いました。明治国家が立ち上がった段階で、夢物語だと言われながらも、小楠はそういう役割を持った国家として日本は世界に発信していくべきだ、そのため

囲碁将棋